

周東に住み、「ローカル」について、徒然なるままに考えが及びました。「ローカル」に「辺境」という意味はありません。「辺境」には「MARGIN」という表現があります。「端っこ」という意味です。教団の指導者が、「田舎牧師のわたしが、本田弘慈先生の計らいで、地方から脱出することができました」との証しを聞いた時は驚きました。信仰の父「アブラハム」は、メソポタミアから、辺鄙（へんび）な「カナンの地」に導かれました。「モーセ」は、ミディアンの荒野で羊飼いに身を落とし、そこで、主なる神との出会いを体験しました。旧約の預言者たちは、40年にわたるアラビア半島の荒野をさまよひ歩いた時代のことを、あたかも神と民とのハネムーンの期間でもあったかのように回顧しています。（エレミヤ2：2）。あの時ほどイスラエルの民が純粋に主なる神と向かい合った時はありません。預言者の原点は、「荒野」でした。その預言者たちのスピリットは、その後、バプテスマのヨハネに引き継がれて、「荒野で叫ぶ者の声」として、ヨルダン川周辺に響き渡りました。聖書において「端っこ」とは、生ける神と出会う場所、神の御業が顕される場所として特別な意味がありました。主イエスの生涯の大半は、「端っこ」に身を置きました。「ナザレ」も「端っこ」の地です。復活者・イエスの現われた場所は、「辺境の地」を意味する「ガリラヤ」です。主イエスは、そこを最初の伝道拠点としました。ヨハネは、「パトモス」という、地図にあるかないかの小さな島に身を置きました。その時に主から示されたのが「黙示」であります。こうして中心地から外れた端っこから神の御業が起こされます。勿論、その後は、中心部に向かって御業は進展して行くのですが・・・。周東のぞみキリスト教会の立ち位置から判断すると、それは、やがて中心部に向かって重要な発信基地となっているのかもしれないと思われた次第です。「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」（使徒1：8）。